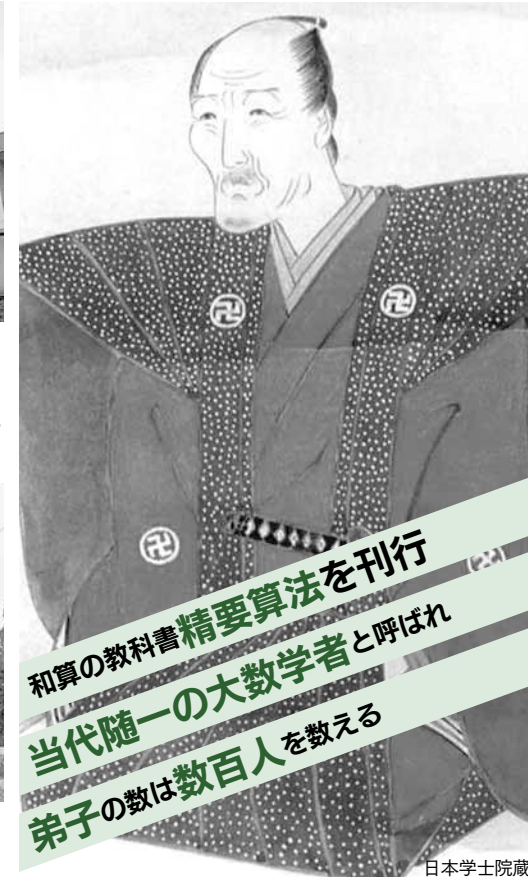


藤田雄山貞資

知ってる？
郷土の偉人

日本数学の育ての親

本年4月29日、川本公民館敷地内に新しく石碑が建てられました。石碑に刻まれた名前は『藤田雄山貞資』。深谷が生んだ江戸時代の大数学者です。今月号は、郷土の偉人『藤田雄山貞資』を特集します。



日本学士院蔵



▲藤田雄山貞資先生顕彰碑
4月29日藤田雄山貞資先生顕彰会により建立されました（11ページに除幕式について掲載）



▲藤田雄山貞資生家（本田地内）
門の前には副碑が建てられています

和算の大家

藤田雄山貞資（以下雄山）は、享保19年9月16日、本田村（現深谷市本田）に本田家の3男として生まれました。幼いころから数学が得意で、測量など父親の仕事をよく手伝っていました。

23歳で大和郡新庄藩（現奈良県葛城市新庄）の藤田家へ養子に入ると、当時和算の主流であった関流の3代目後継者山路主住（以下山路）に弟子入り。次第に頭角を現し、山路の手伝いとして幕府の天文方において改暦の作業に従事します。33歳で山路から関流免許（印可状）を授かり4代目後継者として認められますが、目の病にかかり34歳で天文方の仕事を辞めました。

この後、筑後久留米藩（現福岡県久留米市）の藩主有馬侯に江戸詰め算学師範として召し抱えら

年譜	出来事
享保19年（1734年）	9月16日、本田村に本田家の3男として生まれる
宝暦6年（1756年）	大和郡新庄藩の藤田家へ養子に入る
宝暦7年（1757年）	関流山路主住の門下生となる
宝暦12年（1762年）	幕府天文方手伝いとなる
明和3年（1766年）	山路主住から関流免許（印可状）を授かる
明和4年（1767年）	眼病のため幕府天文方を辞める
明和5年（1768年）	筑後久留米藩有馬侯に算学師範として召し抱えられる
天明元年（1781年）	『精要算法』を刊行。和算の教科書として多くの和算家に用いられる
天明5年（1785年）	会田安明との20年に及ぶ算学論争が始まる
文化4年（1807年）	8月6日、74歳で没す。江戸四谷の西応寺に眠る

※登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

れると、雄山の元にはたくさん弟子が集まるようになります。以降、雄山は多くの後進を育てながら、自らも常に学び続け日本を代表する数学者となりました。
※天文方：天体・暦・測量・地誌などに関する仕事をする役所

精要算法を刊行

雄山の名を全国に広めたのは、48歳の時に発行した書物『精要算法』です。



この本は、関流和算のさまざまな問題を分かりやすく解説したもので、多くの和算家に教科書として用いられました。

東の藤田

西の会田

多数の流派が存在する和算の世界で、関流の雄山と最上流の会田安明の間では20年にわたり算学論争が続きました。

これにより両者の和算水準が向上したと同時に、和算への興味と関心を広く人々に与えるものとなりました。

また、庶民の間では当時人気を博していた相撲に倣い和算家の番付表が作られていました。東西の最高位である大関には、東に雄山、西に会田安明が位置していました。

数百人の門弟

雄山は多くの後進を育てた教育者でもありました。その門弟は数百人といわれています。

中でも上州板鼻（現群馬県安中市板鼻）の小野栄重は、伊能忠敬を手伝って日本地図の作製に貢献しています。

和算ってなに？

江戸時代、鎖国中の日本で発達した独自の数学です。多数の流派が存在し、特に関孝和の流れをくむ関流が有名。その数学としてのレベルは世界最先端に達していたといわれています。また、和算は実用であるとともに庶民の娯楽でもありました。人々は和算を趣味として楽しみ、算額（数学の問題や解法を絵馬のようにしたもの）を神社仏閣に奉納する習慣も生まれました。

明治になると西洋数学が取り入れられるにつれ和算は衰退しましたが、算額の風習は昭和初期ごろまで残っており、市内でも畠山の満福寺や原郷の楡山神社に奉納されています。

Interview

インタビュー



雄山を身近に感じて
藤田雄山貞資の末裔
本田文明さん
(本田在住)

わたしは雄山から数えると9代目に当たります。近い関係だと得てしてその存在の大きさを感じづらいものですが、周囲のかたがたのお力により、改めて教えていただいています。次の世代へ歴史を引き継ぐため、今後当家に残る資料などを整理し、わたし自身勉強しなければと考えています。皆様には、雄山と和算を身近に感じていただければと思います。



子どもたちが学問を志すきっかけに
藤田雄山貞資先生顕彰会会長
野澤優さん
(田中在住)

顕彰会はこれまで、展示会やリーフレット・絵本の作製など雄山の功績を伝えるべく活動してきました。顕彰碑の建立に当たっては、本当にたくさんのかたにご協力を頂きました。ありがとうございます。多くのかたに雄山を知ってもらい、特に子どもたちが学問を志すきっかけになればうれしいです。

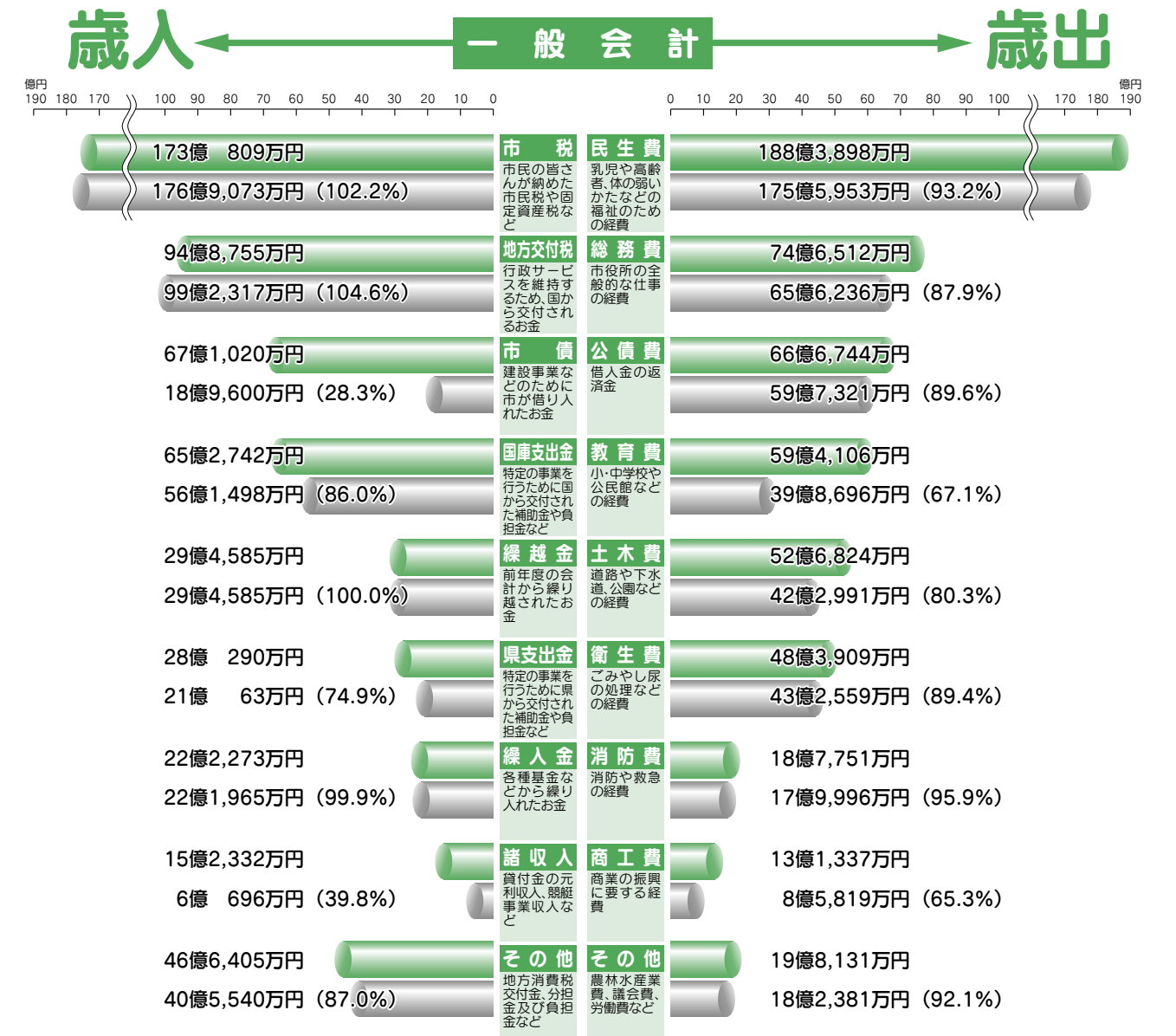


▲楡山神社に奉納されている算額

深谷市の財政状況

平成23年度(平成24年3月31日現在)の市の財政状況をお知らせします

市では、まちづくりのために、市民の皆さんに納めていただいた税金や市債(市の借入金)などを財源とし、効率的な財政運営に努めています。どのような事業にどのくらいお金が使われたかという、「市の家計簿」ともいべき財政状況を年2回に分けてお知らせしていますが、今回は、平成23年度(平成24年3月31日現在)の財政状況をお知らせします。



歳入予算額・541億9,211万円
 収入済額・470億5,337万円
 執行率……86.8%



予算額に対して、収入済額と支出済額のそれぞれに差がありますが、これは出納整理期間の収入・支出が加算されていないためです。決算の数値は、出納整理期間終了後の数値になります。
 (注)出納整理期間…年度内に終了した取り引きについて、4月1日～5月31日までに現金を収入・支出した場合は、年度内に収入・支出したものと出納を処理することができます。この期間を出納整理期間といいます。

歳出予算額・541億9,211万円
 支出済額・471億1,953万円
 執行率……86.9%



※数値は表示金額未満を四捨五入しているため、合計額と一致しない場合があります。
 ※予算額は、平成22年度の繰越分を含みます。

特別会計

※国民健康保険、後期高齢者医療、農業集落排水事業、土地区画整理事業

会計名	予算額	収入済額	支出済額
特別会計	194億7,731万円	177億2,140万円	177億9,692万円

企業会計

※下水道事業、水道事業

会計名	予算額	収入済額	支出済額
収益的収入	44億1,091万円	42億6,161万円	-
収益的支出	40億4,157万円	-	37億9,108万円
資本的収入	41億1,392万円	41億9,679万円	-
資本的支出	75億521万円	-	43億8,517万円

市有財産

市が保有する公有財産のうち、土地は3,160,552㎡、建物401,301㎡です。庁舎、学校、公園などの行政財産と、それ以外の普通財産とに分かれます。

区分	土地		建物	
	行政財産	2,881,708㎡	380,027㎡	
普通財産	278,844㎡	21,274㎡		
計	3,160,552㎡	401,301㎡		
物権(地上権)			495㎡	
有価証券(テレビ埼玉ほか株券)			2,875万円	
出資による権利(埼玉県信用保証協会出金など12件)			39億625万円	
債権			3億1,318万円	
基金(行政振興基金など19件)			153億2,204万円	

市債(借入金)

※特別会計=農業集落排水事業、土地区画整理事業
 企業会計=下水道事業、水道事業

会計名	残高
一般会計	256億4,426万円
特別会計合計	78億2,182万円
企業会計合計	247億195万円
合計	581億6,803万円

市民1人当たりに換算すると **395,324円**
 1世帯当たりに換算すると **1,041,299円**

平成23年度深谷市一般会計予算は、東日本大震災からの復興・支援を図るべく、公共施設の耐震化や農業者・中小企業者向け緊急資金援助策などを内容とする6次わたる補正および専決処分を行ったことに伴い、過去最大規模の541億9,211万円となりました。

本市の財政構造の特徴として、歳入に占める地方交付税の割合が高いことが挙げられ、安定的に計上できる自主財源の確保が将来的な課題となっています。

景気低迷の影響を受けて税収が伸び悩む中、社会保障関連経費は増加を続けており、市政運営にはより一層の知恵と工夫が求められますが、限りある財源を有効活用できるよう、市民の皆様の声にしっかりと耳を傾けながら、選択と集中を念頭に引き続き行財政改革を進めてまいります。

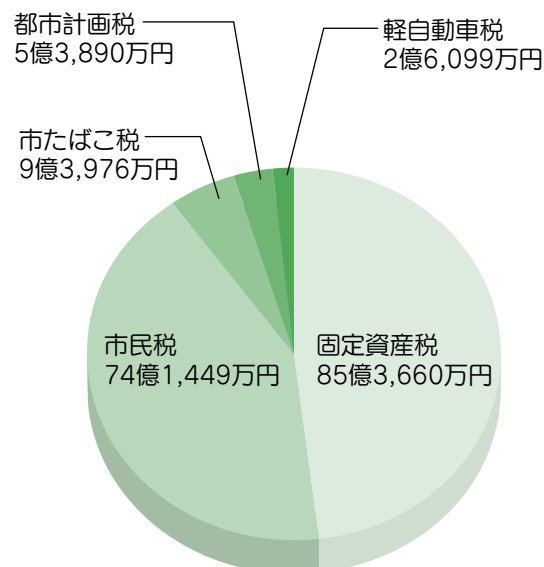
深谷市長 小島 進

深谷市の人口

人口	147,140人
世帯数	55,861世帯

市税の内訳

総額	176億9,073万円
----	-------------



※数値は表示金額未満を四捨五入しているため、合計額と一致しない場合があります。